

全学共通教育「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. 日本語：日本語 1～8、日本事情：日本事情 I～IV

平成 23 年度共通教育「日本語」「日本事情」では以下のクラスを開講した。

- ・ コーディネーター：大石 寧子

概要：

昨年につき、今年度も新入学部学生が少なかったため開講しないクラスもあった。受講者のほとんどが協定大学の交換留学生で、交換留学の期間が 10 月から 9 月のため、前期と後期では受講者が入れ替わっている。また昨今は本国での所属が日本語学科だけでなく工学部系の学生が増えてきて、残り 6 ヶ月に該当する前期は、各自の専攻の科目を取るため、日本語科目の受講が減る傾向が、しばしばみられる。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4			日本事情 I・II	日本事情 III・IV	
5・6					
7・8	日本語 1・2	日本語 7・8			
9・10	日本語 3・4	日本語 5・6			

前期：日本語 1・3・5・7、日本事情 I・III、後期：日本語 2・4・6・8 日本事情 II・IV

日本語 1 前期 対象受講者がいなかったため、開講せず。

日本語 2 後期

- ・ 担当者： 遠藤かおり
- ・ 受講人数： 4 名（中国 3 名、韓国 1 名）
- ・ 使用教材： 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』、石黒 圭他
スリーエーネットワーク
- ・ 概要： 本講義では、主要テキストを中心に各課の項目に沿った内容を扱い、適宜教材を加えて発展性をもたせた。授業の流れとしては、まず学習する課の項目に関して予備知識を確認し、

基本を踏まえ、更に適切な表現を習得し、語彙力を増すという流れである。留学生が日本の大学教育で勉強をしていく上で、授業内容を正確につかめ、且つ正確な情報発信ができることを目標とした。そのため、その他の日本語のクラス活動においてスムーズに活動ができることを想定し、論理的な文構成ができることを念頭において行った。

日本語 3 前期 対象受講者がいなかったため、開講せず。

日本語 4 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 12名（中国8名、韓国3名、モンゴル1名）
- ・ 使用教材： アジア人財資金構想事業共通教材、「日本企業への就職ービジネス会話トレーニング」岩澤みどり他アスク
各種事例
- ・ 概要： 公的な場面や職場での事例を元に、その原因・理由、状況、文化の違いを考え、適切な表現やそれを支える日本人の考え方・常識・マナーなどについて考えるケーススタディの形をとった。また実際に会議での発話の展開、電話対応、伝言メモの取り方などにも広げ、敬語や丁寧語の復習・習得も行った。またグループディスカッションの形態を多々取り入れた。

日本語 5 前期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 5名（韓国2名、中国2名、マレーシア1名）
- ・ 使用教材： 「大学・大学院 留学生の日本語 - 論文読解編」アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク、論文、新聞・雑誌の記事、広告 他
- ・ 概要： 大学生活においてレポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書く機会が多い。そのための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。その基礎として異なったタイプの文章の読解演習を入口として、「読む」能力を向上させると共にそれを支える「書く、話す、聞く」の四技能全てを伸ばす

様々なタスクをピアワークを通して行った。最終的には自分の思いや考えを短い文の中で最も的確に表現する手段として①自国②徳島大学または母国の大学③徳島の3つのキャッチコピーを作成し、発表した。



日本語 6 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 人数： 4名（韓国1名、中国3名）
- ・ 使用教材： 「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」大島弥生他 ひつじ書房、「日本語Eメールの書き方」築 晶子他 The Japan Times 他
- ・ 概要： 大学生活に必要な「小論文作成」を最終目標とした。論文の書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」を学習した。お願い・誘い・お詫び・断りなどをテーマにし、作成上のルール、構成、添付方法なども含めて学び、宿題の提出を実際にメール添付の形で毎回実施した。その後小論文の作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降もクラスのメンバー、日本人学生、地域日本人とのピアレスポンスを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの1つとして、アンケートの作成・アンケートの取り方・集計・分析のしかたも学習した。小論文のタイトルは以下のようである。
 1. 日本人の宗教心ー日常生活に密着した宗教生活の考察
 2. 水を飲む
 3. 外国語を勉強する方法

4. 日本のオタク文化

日本語 7 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（韓国3名、中国5名）
- ・ 使用教材： 『パパとムスメの7日間』 館ひろし、新垣結衣主演 DVD
TBS テレビ、及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要：
生教材を使うことよって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、学校、家庭そして会社という場面によって違う、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく深く日本語及び日本社会を理解することを目的とした。学生の言葉や会社での地位による待遇表現の使い分け等を確認し、また話し合いを行った。

日本語 8 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（韓国3名、中国5名）
- ・ 使用教材： 『ハケンの品格』 篠原凉子主演 DVD フジテレビ映像企画部
及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要：
生教材を使うことよって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、会社における様々な場面を通して、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく細部の日本語及び日本社会を理解することを目的とした。各時間後にドラマについて話し合う「対話の場」を設け意見交換をした。最終課題はドラマの中の一人の人物を取り上げ、物語の進行とともにその人物の変化（発言、行動、態度、価値観等）を細部に注目し記述することを作成した。

日本事情 I 前期

- ・ 担当者： 大石寧子

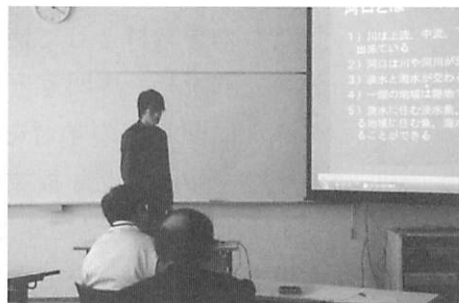
- ・ 受講人数： 7名（韓国3名、中国2名、クウェート1名、ベラルーシ1名）
- ・ 使用教材： 適宜プリント配付
- ・ 概要： プロジェクトワークを通して、徳島を知ることが目的とする。今回は、来日後3週間ぐらいまでの留学生のための生活ハンドブック「徳島大学へようこそ」A5サイズ、14頁）作成。詳細については、「紀要」に報告

日本事情Ⅱ 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 5名（中国3名、韓国2名）
- ・ 概要： 徳島の象徴の1つである「吉野川」の様々な面を通して徳島を知ると同時に自国や故郷についても考えてみる。また様々な人の講義を聞き、講義に対する準備と振り返りの活動を通し、大学での授業の形式を身につける。最終的には各自でテーマを決め、調査発表を行った。発表のテーマは以下のようである。
 1. 吉野川と黄河における洪水に対する地域信仰
 2. 吉野川・第十堰(日本)と長江・三岐ダム（中国）の住民運動
 3. 河口域の自然環境－吉野川と洛東江
 4. 商業における阿波藍の歴史
 5. 阿波藩時代の吉野川と水運



地域住民に聞き取り調査



地域住民を前に発表

日本事情Ⅲ 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 6名（韓国3名、マレーシア1名、中国2名）
- ・ 使用教材： 『視点・論点』NHK テレビ放送番組
及び 関連資料と自主作成教材
- ・ 概要：
NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説し、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関する学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」原稿を作成しそれをもとにしたスピーチ発表会を日本人の聴衆の前で行った。スピーチのテーマは以下のとおり。
 - ① 「海の向こうで日本を体験」
 - ② 「漢字を振り返る」
 - ③ 「日本語の中の外来語」
 - ④ 「日本の美人」
 - ⑤ 「食べ歩きしてもいいじゃない」
 - ⑥ 「日本人の祭り」

日本事情Ⅳ 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 5名（韓国1名、マレーシア1名、中国3名）
- ・ 概要：
NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説し、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関する学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」の原稿を作成した。授業内では以下のように多様なテーマを扱った。
 - 1 「津波てんでんこ」
 - 2 「大衆的個人主義」
 - 3 「ドイツの子供向け絵本（異文化理解をテーマとしたもの）」
 - 4 「短期留学生との英語による交流」
 - 5 「中国の大学に関して（訪問中国人研究者による特別講義）」等また日本人学生及び社会人との協同学習の場を設け、日本人への提言作成に関してはグループワークによって、問題設定-調査-意見交換-最終課題の作成-発表会を行った。「日本人への提言」の各テーマは以下である。

- ① 「日本人の話し方」
- ② 「日本とマレーシアの違い-食文化から-」
- ③ 「アニメから見る日本人」
- ④ 「文化の違いを理解しよう-旧暦を知ろう-」
- ⑤ 「家にいつもロボットがあるように」

今期は、学内の共通教育開講授業「異文化交流の体験から何を学ぶのか！」
(日本人学生 13 名、社会人 2 名) と連携し、何回か合同の活動を行った。
実験的試みとして評価を含んだ実践報告を予定している。

2. 共通教育 共創型学習「国際交流の扉を拓く」後期 金成海、三隅友子、坂田浩

- ・ 受講人数： 23名（日本人学生18名、社会人5名）
- ・ 実施内容：

私たちのまわりの「文化」を日本人と外国人の視点からとらえ直す。受講者の対話を通して「文化」・「交流」とは何かを考える。①国際交流とは、②異文化理解とは、③共に生きるとは、をテーマに「異文化コミュニケーション」、「日本語と文化理解」、「留学生事情」をはじめ、様々な視点から講義及び体験学習を行った。授業日程および各回の内容は、以下の表のとおり。

回数	実施日	担当者	テーマ・内容
1	10月05日	坂田&三隅	オリエンテーション
2	10月12日	三隅(1)	コミュニケーションについて体験的に学ぶ ・アサーティブ ・リフレクション ・異文化理解
3	10月19日	三隅(2)	
4	10月26日	三隅(3)	
5	11月09日	三隅(4)	
6	11月16日	三隅(5)	
7	11月30日	金	徳島大学の留学生事情
8	12月07日	三隅(6)	三隅(1)～(5)の続き
9	12月14日	坂田(1)	自文化を知る&異文化を知る ・コミュニケーションスタイルを知る ・ステレオタイプ ・ステレオタイプからの脱却 など
10	12月21日	坂田(2)	
11	01月11日	坂田(3)	
12	01月18日	坂田(4)	
13	01月25日	坂田(5)	
14	02月01日	坂田(6)	
15	02月08日	坂田(7)	
16	02月15日	坂田&三隅	総括授業（留学生による発表）

なお、最終回（2月15日）には、秋期日本語コースで日本語を勉強していた11名によるスピーチを聞き、簡単な交流会を行った。

